



2021年6月24日

「一年を顧みて一卓話に替えて」

2020-2021年度会長 東野 裕暢

困難な決断が求められ続けた今年度でした。振り返れば、前期は「**大変な事があり、困難な時だからこそロータリーの扉を積極的に開き**」「**With コロナ、After コロナでまずは動き出す**」事が出来ました。しかし後期は、コロナ禍の厳しさが増す中、「**会員の安全と医療への負荷回避に資する運営を最優先**」とした為、多くの行事や親睦を更に犠牲にせざるを得ませんでした。これにより会員サービスに著しい低下を招いた事は、まことに申し訳なく、もっと適切な方法があったのではないかと自責の年度末となりました。それでも幾つかの成果もあり、その多くは会員の皆様のご理解ご協力、理事役員の方々からの英知とご支援この両輪によるもので、特にITを中心とする諸成果は奥中幹事、感染症対応は、田内理事、高橋直前会長のご指導のお陰であります。以下、箇条書きで個別に振り返ります。

A 出来た事

①前期の例会開催—ハイブリッド例会と感染症対策

第一例会より Zoom による Online 中継し、リアルとのハイブリッド例会で運営。

本成果は、奥中幹事の周到な準備と松尾 SAA による構成とアシストによるもので、藤井ガバナー始め地区関係者より最速且つ最先端運営であるとの賞賛を得られた。

リアル例会時には、感染症対策にその時点その時点の最善策（検温、消毒、席のディスタンス、換気、部屋の変更、食事不提供に食事券配布など）を親睦委員会のご努力で施し予防に万全を期した。但し、食事の不提供自体は、むしろ出来なかった事、“会員サービス低下”として大変申し訳ない限り。

②12月以降の例会開催判断

例会開催か緊急時他宣言等での休会かを半歩早く判断し、細かく説明と通知を行った。

（この①②対応には、理事会メンバーのドクター田内会員、高橋会員から適時適切なアドバイスや予測を頂けた事が有難かった）

③緊急事態宣言下の休会中の繋がり—Online インフォーマルミーティング

「全ての会員と共にあり続ける」との信念から、諸事情により Online 参加不可能な会員へも配慮し、他クラブの様に完全リモート例会には踏み切らず、他方インフォーマルとして Online ミーティングを継続的に実施し、感染症の事、ロータリーの事、RI の事、身の回りの事など幅広く参加者と意見交換ができた。本件も奥中幹事の成果。

④休会中の週報特別号発刊

休会中も週報を途切れさせず特別号として事務局のご努力のもと出し続け、会員への情報提供に努めた。

⑤社会奉仕－堺市医師会への医療用手袋緊急寄贈

活動計画6「**現下のパンデミック等、社会的危機に貢献できる奉仕を実行する**」為、休会中のオンラインミーティングで、コロナ禍最悪期の医療最前線への貢献策を議論した結果、「医療用手袋 10 万枚」を堺市医師会に緊急寄贈できた。その資金も今年度の休会中の浮いた例会費を充てる事で「休会したこと自体が感染予防以外にも具体的な意味を持つ（貢献に繋がる）」ことになった。本件は、ロータリーの友5月号で取り上げられ、且つ RI2640 地区『2020-21 年度意義ある奉仕賞』の受賞として結実に至った。

⑥米山奨学生ルイス君へのクラブ独自奨学金支給

米山奨学生であったルイス君が博士課程への進学を急遽決断。しかし決断時には既に米山奨学金の枠が埋まっており延長申請できず。そこで木澤カウンセラーのお世話によりルイス君に当クラブとして独自の奨学金を援助する事とし、その資金に旧 RMM 休眠口座（前記⑥）資金を同会熊野代表のご支援のもと活用できた。

⑦過去又は休眠の同好会の休眠口座整理

旧 RMM、旧麻雀同好会（いずれも 20 年以上前に活動停止、前者は熊野代表、後者は松本元会員のご支援）や SR フォト会（西座お世話役のご支援）に付き、事務局で保管中の会費の休眠口座を関係者のご承諾とご理解のもと、クラブにご寄付頂いた。

⑧入会書式や入会時配布書面の個人情報是正

従来より問題となっていた入会書式の不適切部分や個人情報管理の観点から削除ないし扱い変更を要する各文書に修正を施し適正化を図った。

⑨皆出席祝いにエンブレムバンク（手持ちバッジの抛出）を導入し、選択制（バッジか別の品）で運用し、合理化を図った。

B リニューアルや代替で成果があった事

以下①～③は冒頭記述の通り、全面的に奥中幹事の英知と力技の成果。

①クラブホームページの全面刷新

長く課題であったクラブホームページを全面刷新し、方針計画やクラブ概要、行事予定のみならず、「RC が初めての方への語り掛け」「フェニックス通りのフェニックス奉仕事業の歴史」「これまでの全奉仕事業一覧」「親クラブ子クラブ等の系統図」「会員構成の特色図解」さらには堺 RAC のページに至るまで内容の充実を期した。会員向けメッセージとしては、各告知を巻頭に「重要」と強調表示、週報や会長の時間のアーカイブも毎週アップし、情報のオンタイム性を重視した。

②クラブ会計ソフトの刷新

Windows98 という極めて旧式の OS に依存して動いていたクラブ会計ソフトを最新のアプリケーションとハードに替え、会計データが壊れる事の無いよう事前手立てを施し且つ、機能・処理に飛躍的改善を成し得た。

③ドメイン管理業者変更

堺 RC の独自ドメイン[sakai-rc.jp]の管理会社を変更し、Web 内製化と Web サーバー変更に伴う Web に係るランニングコストの削減ができた。

④RI 推奨クラブ戦略会議

当クラブ伝統の中長期委員会的発想で、過去を振り返り整理する“クラブ戦略会議”の再定義と今後の組み立てを第 1 回で行い、近年の会長経験者によるフォーラムで 2 回目を行った。ただ、最後の「今後への布石」を検討するはずの第 3 回は、コロナ禍休会により実現できなかった。

⑤仁徳天皇陵案内板改修

堺 8RC 連絡会において検討し、写真及び解説内容（含む英文）について全面改修しその一翼を担った。

⑥ミリオンダラーミール実施

本来奉仕に使われるはずのミリオンダラーミールが、近年の一般会計事情から“軽食例会”としてその浮いた資金を一般会計に組み入れてきたものを、本来の奉仕に組入れ換え、ロータリー財団への寄付とした。

⑦会長の時間及び休会中のそれに代わる週報巻頭文

RI 推奨の「会長の時間にロータリーの話」を受けロータリーの話を中心にすえつつも、ただそれだけでは退屈になってしまうので他に会員インタビュー、時事ネタ、よもやま話などと工夫を重ねた。休会中は、同旨にて週報巻頭文として継続連載した。

⑧理事役員会

リアルで集まれた前期は、当然通常通り実施。後期のコロナ禍においては、Zoom、メール、電話を駆使し、クラブの意思決定に滞りや瑕疵の無いよう同会メンバーの全面協力で月例及び臨時共に為し続け、最重要回たる新旧合同理事役員会は、感染症対策に万全の上にも万全を期しリアルで行い、引継ぎに万全を期した。

C 出来なかった事

①親睦行事、例会での食事提供

例会の卓話の延長で「スタンダードジャズと昭和歌謡コンサート」や「乙女文楽」の実演を鑑賞する事は出来たが、主要親睦行事は、ビアパーティー、観月会、忘年家族会、観桜会のいずれもが感染症対策により実施できず、会員の入退会に伴う歓送迎会も比較的コロナが落ち着いていた 11 月にわずか 1 度行えたのみであった。

例会内の食事提供も感染症対策を強いられ、期中より提供不能となり、やむなくホテル食事券を配布するに留まり、例会内での親睦時間を大幅に失うに至った。

②全ての 70 周年記念行事の中止

前年度 70 周年実行委員会での決定に基づき、本年度 2 月 20 日に予定していた「70 周年記念行事」の全てを、今般のコロナ禍パンデミックを受け全面中止し、それに向け準備した資金は、前年度同様に今後の周年事業用基金として別枠保管とした。

③台中東南 RC との短期交換学生

期初より同クラブからの見合わせ申し入れがあり、当クラブも完全に意見が一致し、感染症対応が落ち着かない間は、取りやめする旨合意となり実施できなかった。

④会員増強

企業会員の転勤退会は別として、同会員の組織変更による退会且つ後任無しやご高齢等からのご事情による退会、RI やクラブ運営への意見の相違による退会などが続いた。期初に純増入会もあったものの結果として会員数を減らす事となり、今年度の会長職を預かる身として最大の責任を感じるところであった。

⑤各フォーラムとクラブアッセンブリー

クラブ奉仕フォーラムと社会奉仕フォーラムは、コロナが比較的落ち着いていた11月であったので行えたが、緊急事態が続いた後期の青少年奉仕、国際奉仕、職業奉仕の各フォーラムは、例会不開催によりこれを断念せざるを得なかった。

同様の事情により、クラブアッセンブリーも期初の1回に留まった。

以上、不心得にも出来た事を先に述べ、出来なかった事を後にしました。その出来なかった事いづれもが次年度以降、花咲き実を結ぶであろう事を祈りつつ、引き続き一人の会員としてその結実に汗を流し続ける事を自らに言い聞かせつつ1年のご報告とさせていただきます。出来不出来も合わせ飲み、まさに「一片の氷心 玉壺に在り」の心境であります。本出典を添付し「一年を顧みて一卓話に替えて」を締めさせていただきます。

芙蓉楼送辛漸（芙蓉楼にて辛漸を送る）

寒雨連江夜入吳（寒雨 江に連なって 夜 吳に入る）

平明送客楚山孤（平明 客を送れば 楚山孤なり）

洛陽親友如相問（洛陽の親友 如し相問はば）

一片氷心在玉壺（一片の氷心 玉壺に在りと）

一訳一 冷たい雨が川面に降りしきる中を、昨夜の内から君を送るため吳までやってきた。明け方になっていよいよ君を送ると、目の前には楚山がぼつんとそびえている。洛陽の親友達がもし私のことを尋ねたら、言っておいてくれ。「ひとかけらの氷の芯が玉壺の中に浮いているような、そんな清らかな心のままだよ」と。

王昌齡の七言絶句「芙蓉楼（フヨウロウ）にて辛漸（シンゼン）を送る」より

会員の皆様、1年間有難う御座いました。深謝！